

成田市環境学習会

里山の秋

小川洋子（八千代市）

日 時：2017年11月26日（日）9時30分～12時 天候：晴れ

参加者：8名

担当指導員：小川洋子、坂本文雄、戸村真理子、伊藤道男

成田市環境計画課：5名

当日の天気は秋晴れ、集合場所の京成線公津の杜駅は宅地開発に伴い20数年前に開業した比較的新しい駅だ。駅前には今年オープンした国際医療福祉大学の校舎が立つ。しかしそこから10分も歩くと全く異なる里山の風景が広がる。当日の舞台はこの里山だ。

時期は晩秋、花はほぼ終わり虫も活動を休止中だが、秋は実りの季節でもある。この時期ならではの実りを楽しむことができた。緩やかな坂を上がると、民家の前にはスダジイやシラカシのドングリがたくさん落ちていた。近くの木にはテイカカズラが巻き付き長い実をつけていた。実を開いてみたが未熟で、きれいに畳まれたタネは確認できなかった。ヌルデの実の小鳥たちの好物、ちよびり口に入れて味わってみた。人間に鳥の好みは？だ。おいしいという声は聞かれない。栗林、梅林、その先にはなぜか同じ方向に傾いたツバキの林があった。ツバキに絡まったクズのせいかな？畑の境界にはチャノキが行儀よく並んでちらほら花も見られた。北総地区に見られる里山の風景だ。ここでユーモラスな姿のアケビコノハの幼虫を発見した。手にのせて見てもらうと触って「蛾、毛虫＝気持ち悪い」という先入観を改めてくださった方もいた。ウグイスやヤマガラの鳴き声が聞こえたが姿が見えず残念！

台地から谷津田に下りるとニシキギ、メギ、イイギリ、シロダモなどの赤、ムラサキシキブの紫、ヘクソカズラの黄金色、トキリマメ、ネズミモチなどの黒と斜面は色鮮やかだ。たわわに実ったカキノキの下には実がたくさん落ちていた。ここでオオアオイトトンボが姿を見せた。このトンボは樹木に産卵すると話すと参加者が驚いた。もう一つ驚かれたのはカニクサ、ひよろひよろと長い蔓（に見える）についているたくさんの葉、これは小葉で根元から何メートルあっても1枚の葉だ。自然は不思議に満ちている。国道を渡ると公津の杜公園、調整池でコガモやオオバンを観察をして公園入口で学習会は終了した。参加者は地元の方が多かったようだが、「普段気づかなかったことをたくさん発見できた」「楽しかった」「里山の存在を知った」などの感想が聞かれた。

今回の環境学習会は成田市からの依頼で行うことになったもの。学習会の狙いを①住宅街の傍の里山に気付く、②その豊かな自然を五感を使って味わってもらう、③指導員からの一方通行ではなく参加者にも積極的に秋を発見してもらう、として、ほぼ達成できたと思う。成田市で初めての試みということで万全のサポート体制を取ってくださりありがたかった。



アケビコノハの幼虫